

第4回実験動物科学シンポジウム 新たな疾患モデル動物が切り開く橋渡し研究

2015 13:00
12/11 (金) ~17:40

加計学園50周年記念館ホール
(岡山理科大学)

プログラム

司会 浅野雅秀(京都大学大学院・医学研究科)

挨拶 岡山理科大学 学長 波田善夫
日本実験動物学会理事長 浦野 徹

セッション1 スンクスの疾患モデルとしての可能性を探る

座長: 織田銑一(元岡山理科大学・理学部)

- はじめに - 実験動物としてみたスンクスの諸特性
織田銑一(元岡山理科大学・理学部)
- 神経ペプチド・ホルモン分子の進化と機能 行動制御モデルとしてのスンクス
坂本浩隆(岡山大学大学院・自然科学研究科)
- スンクスを用いた消化管運動研究 -モチリンとグレリンの相乗作用について-
坂井貴文(埼玉大学大学院・理工学研究科)
- スンクスにおける低温不耐性のメカニズム
城ヶ原貴通(岡山理科大学・理学部)・鈴木大輔((株)オリエンタルバイオサービス)

セッション2 新しいモデル動物 -ツパイ, フェレット

座長: 吉川欣亮(東京都医学総合研究所・哺乳類遺伝プロジェクト)

- 新たなヒト型感染症モデル動物としてのツパイ
小原道法(東京都医学総合研究所・感染制御プロジェクト)
- フェレットを用いた高等哺乳動物の脳神経系の分子遺伝学的解析
河崎洋志(金沢大学・医薬保健研究域)

セッション3 トランスレーショナルリサーチのための新たなモデル動物と作出

座長: 若菜茂晴(理化学研究所・バイオリソースセンター)

- 様々な動物のアレルギーから発するトランスレーション研究
田中あかね(東京農工大学大学院・農学研究院)
- ゲノム編集の基礎と新たな哺乳類モデルの樹立
本多 新(宮崎大学・テニュアトラック推進機構)

閉会挨拶 岡山実験動物研究会会長 国枝哲夫

懇親会(18:00~19:40): 岡山理科大学11号館8階ラウンジ

会費: 一般3,000円、学生1,000円(要事前申込)

懇親会登録連絡先: exp-anim-okayama@animres-ous.com

主催: 岡山実験動物研究会・(公社)日本実験動物学会 後援: 岡山理科大学